

## 北九州市ディスポーザーの単体使用に関する調査研究

調査研究年度

2006 年度・2007 年度

### (目 的)

近年、生活様式の変化、都市における生ごみ問題の深刻化、高齢化社会の到来、海外における使用実績等から、不衛生で臭いのする生ごみを迅速、簡便に処理することのできるディスポーザーの導入に関する要請が高まりつつある。また、エネルギー資源回収の有効な手段として、ディスポーザーを利用する考え方もある。

この様な背景から、北九州市では平成 16 年度からディスポーザーの単体使用における下水道システムやごみ処理システムに与える影響とその対策、役割分担などについて技術的対策や制度づくりなどに必要な提言をとりまとめるため、「北九州市ディスポーザー検討委員会」を設立した。

本調査は、同委員会の審議を踏まえながら、ディスポーザーの単体使用による下水道システム、ごみ処理システム、市民生活への影響及びその対応策について、経済面、環境面等から総合的に検討し、ディスポーザーの単体使用に関する提言（案）を策定するものである。

### (結 果)

#### (1) 検討条件の整理

本調査では、北九州市の下水道接続済み一般家庭に単体ディスポーザーが導入された場合を想定した。検討に用いる諸々の原単位については、久岐の浜地区を対象とするモニター調査結果に基づき設定した。

#### (2) 下水道システムへの影響検討

ディスポーザーの導入は、一部運転管理での対処が必要となるが、管渠、ポンプ場、処理場などの現況施設の増設を必要とするまでの影響を及ぼさない。ただし、合流式下水道区域では雨天時越流水による公共用水域への汚濁負荷の増加が懸念される。

#### (3) ごみ処理システムへの影響検討

ディスポーザーの導入は、ディスポーザーの普及に合わせた焼却施設等の運転管理面に留意が必要となるが、ごみ減量のメリットをもたらす。

#### (4) 市民生活への影響検討

ディスポーザーの導入は、市民生活に対して便利さや快適さ等のメリットをもたらす。ただし、ディスポーザーの設置や維持管理が適正になされない場合には、ディスポーザーの故障や排水設備の詰まり等のトラブル発生が懸念される。

#### (5) 経済面及び環境面の評価

ディスポーザーの導入は、環境面では温室効果ガス排出量の増加を招き、その対策が必要となるが、経済的には行政コスト削減のメリットをもたらす。

「北九州市ディスポーザー検討委員会」では、北九州市におけるディスポーザーの単体使用について、デメリットや課題が改善もしくは軽減され得る一定の条件、代表的なものとして①合流式下水道が改善されていること、②地球温暖化対策が進捗していること、③制度づくりと役割分担が明確にされていること、が整った場合に可能であると提言（案）をとりまとめた。

北九州市からの受託研究

問い合わせ先：研究第一部 清水 俊昭，寺川 孝，秋葉 竜大 【03-5228-6597】

キーワード

単体ディスポーザー，導入検討，影響評価